

一般財団法人京都ユースホステル協会

2022年度事業報告書

期間：2022年4月1日～2023年3月31日



“Say Hi to the world 一旅の持つ力”

若者が世界（旅）の扉を開けて 学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援します

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内

TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289

URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目次

目次	1
はじめに	2 - 3
数値目標達成状況	4
事業活動概況	
I. ユースホステル活動	5 - 7
II. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	8 - 11
III. ユースホステル関連活動	12 - 13
IV. 天橋立ユースホステル	14 - 15
V. 組織運営	16
財務状況	17 - 18

(別添資料) 公益目的支出計画実施報告書

2022年度事業別詳細資料

はじめに

今年度は、ワクチンの複数回接種や国産治療薬の承認など、感染の収束や日常生活の回復を期待してのスタートとなりましたが、感染の継続や7月からの第7次感染拡大などにより上半期はグループ他の宿泊予約の変更や取り消しなど、厳しい施設や事業運営を強いられました。

しかし、10月以降の感染の落ち着きと海外からの入国等の制限緩和の他、全国旅行割の実施など、旅行の回復に向けた取り組みがスタートし、11月以降には宿泊予約の回復や利用の増加が見られ、当初の年度目標には届かなかったものの、宇多野ユースホステルの運営などでは、当初の下半期目標を達成することができました。

こうした年度後半の回復はあったものの、2022年度ではコロナ禍での利用減少等に対する補助金等がなくなったことから、12月時点では約-3,000万円近くの本年度の当期正味財産増減額が見込まれました。そうした状況から京都市担当課に協力をお願いし、今年度納付金(1,020万円)の免除申請を行い承認されたこと等も含め、赤字の縮小に努め当期正味財産増減額は、-15,699,147円となりました。

これまでの3年に渡るコロナ禍での施設や事業の運営を通じて、予期せぬ自然災害や社会環境への変化に対応できる組織の体力や財政基盤の充実の必要性を痛感すると共に、今後の運営継続や新たな活動、事業の取り組みを進める上でも、様々な連携や協働等を日常から養い機能させる必要を強く感じております。

コロナと共存する日常の活動が戻ったとしても、それはこれまでとは違った新たな日常や利用環境の変化等が見られると考えております。

こうした変化にも対応するためには、進化した機器や技術、ソフト等の活用だけでなく、当初の事業計画でも取り上げた

1. 事業や活動、施設の利用回復等、運営の継続を可能にする取り組みとその為のスピード感のある創造的な変革
2. 人・社会・地域・環境に配慮した旅の視点から旅行先や旅行形態を選ぶエシカル消費（倫理的な消費行動）等に対応した運営・事業への工夫
3. これまでの枠組みに捉われない各分野や活動者、地域との新たな連携の構築等による限られた人材でも取り組み可能な事業や業務、働き方の変革

と言った課題にスピード感を持って継続して取り組み、予期せる状況の変化にも対応できる持続可能な施設や事業の運営を行う組織への改革を、今後も進めてまいります。

また、天橋立ユースホステルについては、今年度で現運営者との運営委託契約が終了し、次期運営が見つかったことから、これまでの天橋立ユースホステルの運営課題の整理や検討を行うと共に、次年度以降の運営に移行し新しい体制での運営が進められるよう、施設の片付けや整理、補修繕だけでなく、前運営者や次期運営者との業務の引継ぎと運営課題の調整を 2023 年 4 月以降にも継続して行い、5 月 1 日より新体制での運営を行っております。

宇多野ユースホステルについては、次期指定管理に選定されましたが、コロナ禍後の利用回復や変化等を見極めた運営やこれまでに無かった運営条件、物価上昇への対応等を含めた課題に取り組むなど、今後も厳しい運営が見込まれます。

そうした状況を改善するための運営規定や使用料金上限額の改定などに継続して取り組み、変化に対応した持続可能な運営を図ってまいります。

専務理事 高田光治

数値目標達成状況

(1) 事業・取り組み

事業活動	年間目標設定項目	目標数	実績数	達成度
YH活動	イベント参加者数	28,700名	37,626名	131.1%
	青少年イベント参加者数	5,300名	5,861名	110.6%
宇多野YH	宿泊実績	21,000名	20,557名	97.9%
	学校団体利用実績	70校	71校	101.4%
	スポーツ団体利用実績	50団体	48団体	96.0%
YH関連活動	夕食提供数	13,400食	12,357食	92.2%
	朝食提供数	17,600食	15,180食	86.3%
天橋立YH	宿泊実績	2,930名	1,718名	58.6%

(2) 収支状況(当期経常増減額)

	一般会計 建設基金	物頒会計	宇多野会計	天橋立会計	総合
予 算	△1,250,000円	5,989,000円	△19,866,000円	0円	△15,127,000円
実 績	△988,223円	△406,011円	△13,652,067円	△471,574円	△15,517,875円
差 額 (対予算)	261,777円	△6,395,011円	6,213,933円	△471,574円	△390,875円

事業活動概況) I. ユースホステル活動 (青少年事業・旅行事業)

若者も大人も、「旅に出たい、何か活動したい」という気持ちがあふれ出た 2022 年だったと感じています。普段、旅に出る機会に恵まれない青少年たちに提供したプログラムはキャンセル待ちが出るほどの人気で、宇多野ユースホステルの Open Day やワールドディナーにも「少し旅気分を味わいたくて」と大勢お越しになり、継続実施をしている焚火庵には今年度 889 名も参加され、京都モダン建築祭に至っては延約 30,000 人の方が参加されました。

参加者の皆さまの「外に出て活動する」「小さな旅に出る」ことへのお手伝いと、そして「人と関わる」「人と交流する」ことが出来る事業を展開することが出来たと考えております。

(1) 目標の達成状況

- 年間イベント・事業活動参加実績目標：延 28,700 名
結果：延 37,626 名 (目標達成率：131.1%)
- 年間青少年対象事業活動参加実績目標：延 5,300 名
結果：延 5,861 名 (目標達成率：110.6%)
- 新規・継続含め宿泊を伴うプログラムの実施：4 企画以上
結果：6 企画実施 (目標達成率：150%)

(2) トピックス

1. ユースホステル運動の普及活動と宿泊誘致

運動普及活動	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2020 年度実績	18 名	28 名	186 名	130 名	362 名
2021 年度実績	21 名	72 名	246 名	185 名	524 名
2022 年度目標	200 名	200 名	200 名	200 名	800 名
2022 年度実績	250 名	80 名	460 名	99 名	889 名
目標達成率	125.0%	40.0%	230.0%	49.5%	111.1%

(ア) 子ども・若者ケアラーの当事者を対象とした宿泊型交流企画の実施 (10/15-16)

子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト (立命館大学人間科学研究所内) との連携で焚火などの野外体験を組み込んだ宿泊事業を実施。ゆっくりできる時間と旅を、同じ思いを持つ青少年同士が楽しめる機会を提供しました。



(イ) Say HI for peace (Sleep for Peace)～ユースホステルから旅を贈ろう～ (2/25-26)

京都市内で、家庭での学習環境が整いにくい中学生を主な対象として、日本ユースホステル協会の助成金と宇多野ユースホステルでの T シャツ販売寄付分を利用し、宇多野ユースホステルでの宿泊と野外体験活動をプレゼントする事業を実施しました。

協力：(公財)京都市ユースサービス協会



2. ユースホステル交流創出事業

交流創出事業	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
2020年度実績	3名	25名	18名	21名	67名
2021年度実績	5名	227名	129名	81名	442名
2022年度目標	50名	200名	250名	100名	600名
2022年度実績	139名	195名	253名	200名	787名
目標達成率	278.0%	97.5%	101.2%	200.0%	131.2%

(ア) 就労支援・社会体験の受け入れ

コロナ禍で中断していた京都市立鳴滝総合支援学校の職業学科の生徒の受け入れにつきまして5月より再開(延141名)、また京都市教育委員会より、毎年公立中学校で実施されてきた「生き方探求・チャレンジ体験」も再開し、市内中学校6校(西賀茂、七条、西京、太秦、嵯峨、蜂ヶ丘)から延22名の受入を実施しました。

(イ) 宇多野ユース・ワールドディナーに合わせ、地域の出店者さんとの交流事業を実施

北欧ディナーの日やトルコディナーの日など、毎月実施の「宇多野ユースで世界を巡るワールドディナー」に合わせ、オーガニック珈琲やドーナッツなど地域の方に協力いただき、参加者の皆さまにゆったりとしたひと時を過ごしていただきました。



3. ユースホステル体験活動の促進

体験活動	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
2020年度実績	5,148名	6,451名	6,133名	5,842名	23,574名
2021年度実績	7,086名	6,137名	8,503名	6,643名	28,369名
2022年度目標	7,150名	6,200名	8,450名	5,500名	27,300名
2022年度実績	9,766名	8,217名	9,434名	8,533名	35,950名
目標達成率	136.6%	132.5%	111.6%	155.1%	131.7%

※モダン建築祭の来場者数は含まず

(ア) 自然の中でのびのび活動、ネイチャーキッズ京都

学年や地域を越えた仲間との絆を大事に活動しているネイチャーキッズ。毎月一回、旅や冒険を様々な自然の中で力いっぱい楽しみました。大学生・社会人の青少年リーダーたちはもちろん、親御さんたちもしっかりとサポートをして下さっています。



(イ) まいまい京都、京都モダン建築祭 [文化庁京都移転記念事業] 実施 (11/11-13)

刻々と変わりゆくまちなみの中で、歴代の人々によって大切に守り続けられているモダン建築を一斉に公開し、その存在と素晴らしさを多くの人と共に味わい、次の世代へつないでいく為の第一回目のモダン建築祭を実施。3日間の来場者数のべ 29,593名



4. 京都府下のユースホステル宿泊実績状況

ユースホステル名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
宇多野YH	35,392人	33,299人	5,566人	8,377人	20,557人
清水YH	692人	470人	37人	-----	-----
美山ハイマートYH	754人	695人	305人	402人	587人
天橋立YH	2,760人	3,381人	1,406人	630人	1,718人

※清水YHは前年度より休館しており、2021年11月末日をもって閉館。

事業活動概況) II. 宇多野ユースホステル (施設運営)

2022年度は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の発出はなかったものの、上半期を中心にオミクロン株感染拡大による不要不急の外出の自粛要請が出され、旅行需要にも歯止めがかかった状況がありました。また、京都市からの臨時休館の指示もなかったため、利用が少ない中でも開館をせざるを得ない状況でした。

コロナ禍においては、近距離圏内の方を対象としたキャンペーンや話題性のある食事イベント等による誘致を進め、規制緩和が進み対面でのイベントや活動の再開の兆しが見えてきた下半期には合宿や親睦、研修等での利用促進に関係団体や過去の利用団体等に働きかけました。

最終的に上半期の利用減少が大きく響いたこともあり、経営状況については収支均衡にすることはできませんでしたが、コロナ収束による人の動きも活発になる中で明るい兆しも見えてきています。

(1) 目標と達成状況

■年間宿泊実績目標：21,000名

結果：20,557名

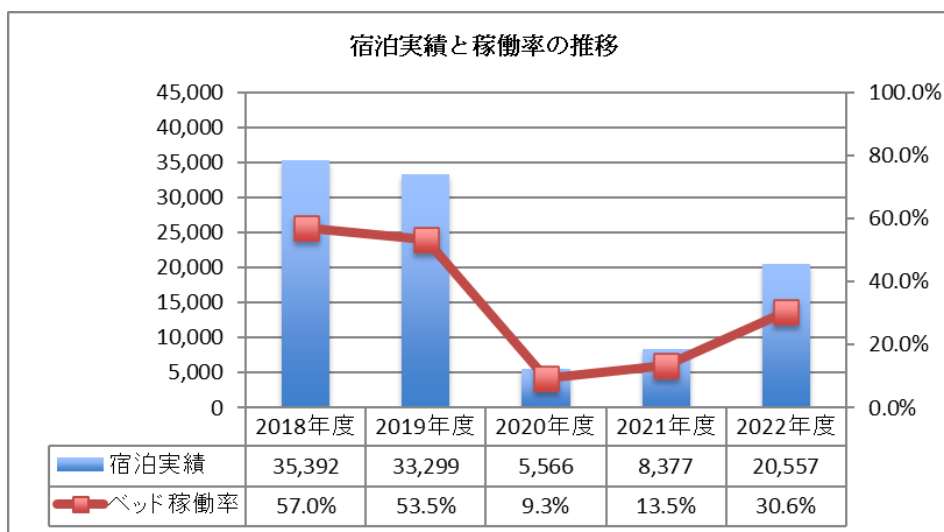
(目標達成率：97.9%、対前年度+12,180名、対前年度比：245.3%)

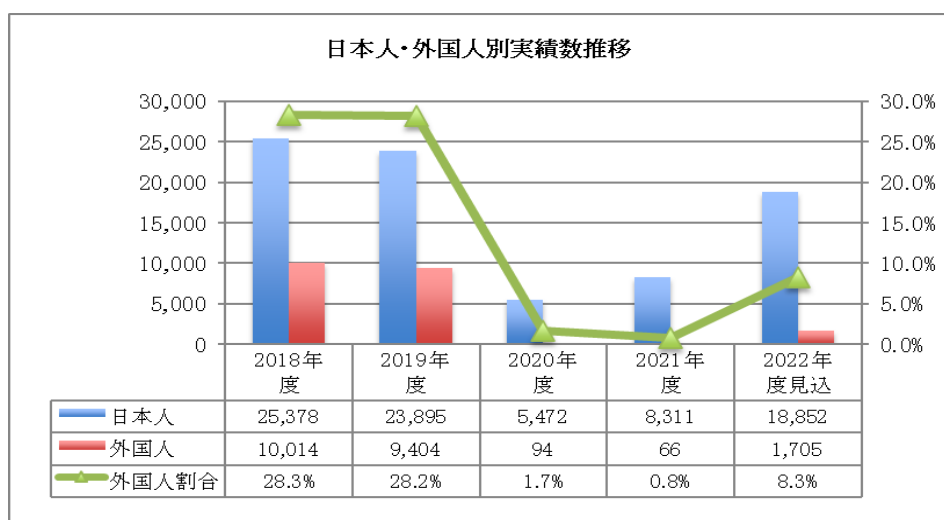
■年間学校団体利用実績目標：70校

結果：71校 (目標達成率：101.4%、対前年度：+54校)

■年間スポーツ団体利用実績目標：50団体

結果：48団体 (目標達成率：96%、対前年度：+33団体)





(2) トピックス

1. コロナ禍の宿泊動向について

新型コロナウイルス感染症について、年度当初のオミクロン株感染拡大をはじめ、夏場の第7波、冬場の第8波による影響は多大なものがありました。幸いなことにその合間となった秋には、今春から延期された教育旅行団体やスポーツ団体の利用、紅葉シーズンや年末年始には個人旅行も一定水準に戻りました。単月の宿泊実績では2019年度比で11月は92.6%、12月は103.0%となりました。また2023年5月の5類感染症移行の前に様々な緩和策が取られた3月にはコロナ禍前の2018年度に比べ98%まで回復し、今後の本格的なコロナ収束をあわせて宿泊について大きな期待が持てる結果となりました。しかし急激な宿泊の回復は反面、スタッフ不足も目に見えて起こってきており、業務の効率化はもちろんですが、運営体制の再構築が急務になっています。

【月別実績表】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度実績	3,297	3,971	2,209	2,642	3,413	2,694	3,485	3,970	2,318	2,170	2,132	3,091	35,392
2019年度実績	3,753	3,737	2,737	2,902	3,772	2,360	3,146	3,466	2,703	2,463	1,701	559	33,299
2020年度実績	92	0	81	331	583	537	438	1,177	680	235	176	1,236	5,566
2021年度実績	411	0	0	495	825	104	454	2,032	2,167	549	293	1,047	8,377
2022年度実績	1,033	1,451	666	1,051	2,121	1,238	2,003	3,210	2,783	1,034	935	3,032	20,557

【割引キャンペーン】

キャンペーン名	期間	延宿泊人数
きょうと魅力再発見旅プロジェクト	年末年始を除く4/1~3/30	2,942
ご家族対象宿泊費割引キャンペーン	6/1~7/15	15
京都「にち・とま」キャンペーン	8月下旬~10月末の日曜日	21
大学生対象ひとり旅友達旅応援宿泊費割引キャンペーン	9/1~30	2
子ども・学生対象宿泊費割引キャンペーン	1/4~3/15	28
	合計	3,008

【学校団体利用実績】※（ ）内は対昨年度実績 ※クラブ利用などは含まず

	合計	内訳		
		小学校	中学校	高校
学校団体	64 校 (+47 校)	25 校 (+20 校)	32 校 (+23 校)	7 校 (+3 校)
泊数	86 泊(+61 泊)	25 泊 (+20 泊)	54 泊 (+37 泊)	7 泊 (+3 泊)
延べ宿泊数	5,883 名 (+3,492 名)	1,543 名 (+982 名)	4,052 名 (+2,474 名)	288 名 (+36 名)
平均泊数	1.3 泊 (+0.2 泊)	1 泊 (±0 泊)	2 泊 (±0 泊)	1 泊 (±0 泊)
海外学生団体	7 校 (±7 件)	※2021 年度 海外の学生団体は宿泊なし		
泊数	25 泊 (±25 泊)			
延べ宿泊数	660 名 (±660 名)			
平均泊数	3.6 泊 (±3.6 泊)			

2. 次期指定管理者に決定

2023 年度からの新しい 4 年間の指定管理者として選定されました。コロナ禍の中、京都市の財政難とあわせて公的施設の見直しなど宇多野ユースホステルを取り巻く環境にも変化がある中で、今回の応募要項においては 4 年間の指定管理期間においても「90 日前までに甲に通知すれば損害賠償ができない」等、新たな運営条件が盛り込まれ厳しい条件の中での決定となりました。その上で持続可能な運営やユースホステル活動のために、宿泊費の上限設定の変更やキャンセル料規定等柔軟な運営ができるよう、京都市担当室とは引き続き協議を続けていきます。

3. 地域との連携や協力

今年度は宇多野ユースホステルがある宇多野学区や宇多野小学校の創立 50 周年という事もあり、その記念事業の講演会や式典、新年懇親会の実行委員としても参画いたしました。また、そういった日頃からの地道な取り組みの成果として 3 月には職員が京都市市民憲章推進者として区長表彰をいただきました。その他、以下団体にも職員を派遣し運営協力等を行っています。

宇多野小学校学校運営委員会、鳴滝総合支援学校運営委員会
右京区行政推進会議オブザーバー
右京ふれあい文化会館活性化協議会
右京テロ対策ネットワーク、京都歴史回廊運営協議会
京都是ぐみネットワーク、京都青少年ゆめネットワーク
京のアジェンダ 21 フォーラム

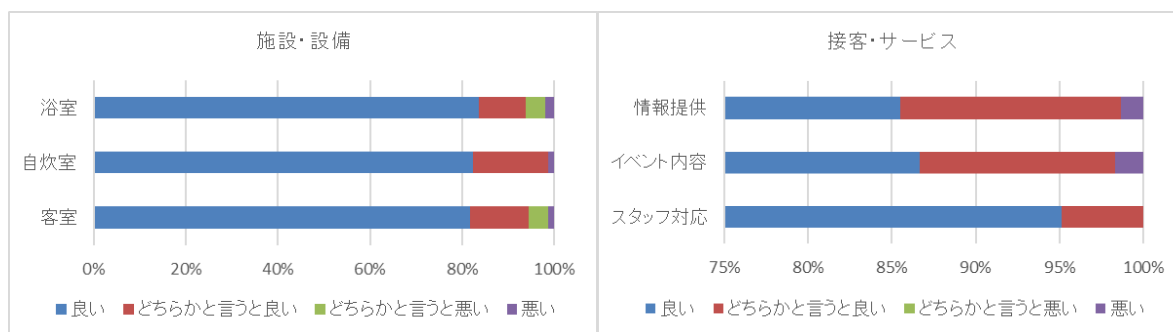


4. その他取り組み

【利用者アンケート評価】

*Google 総合評価とても満足：4.3（前回：4.3） *Trip Advisor とても良い：4.5（前回：4.5）
*楽天トラベル総合評価：4.5（前回：3.9） *agoda 非常に満足：8.5（前回：8.5）
*Booking.com Traveller Review Award：8.2（前回：8.4）

OTA（オンライン予約サイト）では初めての利用の方も多く、そういった方にチェックインの際に複数ヒアリングをしたところ、選んだ理由が「ネットで検索して値段が安かった」「無料駐車場があったから」という意見が多く聞かれました。前回まではユースホステルとして知らずに通常のホテルのようなサービスがあると思って予約された方との乖離が見受けられましたがそういった情報掲載の工夫を行いました。その結果がOTAの大手、楽天トラベルでの評価向上に寄与したものを考えます。懸念としましては、「接客・サービス」項目で、スタッフ対応の満足度は下がってはいませんが、スタッフ数を減らしていることで、宿泊者とスタッフとの接点が以前よりも減ってしまっている事もあり、「単に施設がきれいで快適な宿」での評価になってしまわないか、ユースホステルの特長でもある交流創出機会の低減に繋がらないよう、ユースホステルの価値を伝える工夫が更に必要と考えます。



【営業活動・広報等】

- 過去の宿泊団体に向けた再訪案内
- スポーツ競技団体への誘致案内
- アウトドアメーカーオンラインイベントへの出展や情報発信
- 京都で行われる学会やシンポジウム等への若手向け誘致案内
- 青少年団体への研修合宿や連携した宿泊企画による誘致
- 大学活動サークルへの誘致案内
- 近隣府県の学習塾への合宿利用の誘致案内
- 関係団体会員への情報発信依頼
- インスタグラムやfacebook等SNSを活用した情報発信の強化（ほぼ毎日配信）
- テレビ大阪ドラマ「ちょこっと京都に住んでみた。」ロケ現場として撮影場所を提供
- テレビ朝日ドラマ「遺留捜査」ロケ現場として撮影場所を提供

事業活動概況) III. ユースホステル関連活動 (食堂・物販)

食堂提供については、昨年度よりも宿泊が増えたこともあり摂取数は増えていますが、摂取率については伸び悩みがあります。団体グループについてはほぼ食事付きで宿泊いただいた事もあり、また、個人旅行者については食事付きにする事で割引が得られるキャンペーンの実施や、特にコロナ禍では飲食店の営業自粛や時間規制により街中での食事を敬遠した方が一定数いたと考えられます。しかしながら規制解除での飲食店営業再開による外食への流れや外国人の泊食分離傾向、若い世代はそもそも朝食を食べない傾向などが考えられ、抜本的な打開策は見いだせておりません。引き続きユースホステルで食事をとってもらいやすい環境の整備や魅力的なメニューの開発・提供が必要と考えます。

(1) 目標と達成状況

■夕食提供目標数：13,400食 (摂取率 64%)

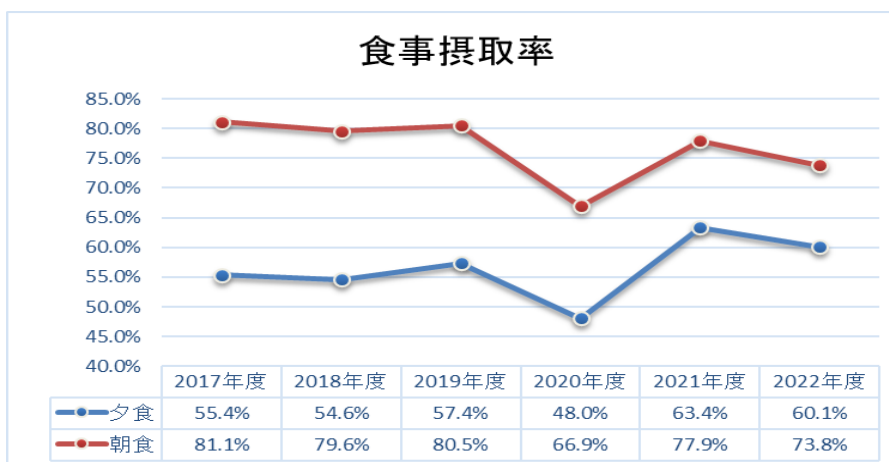
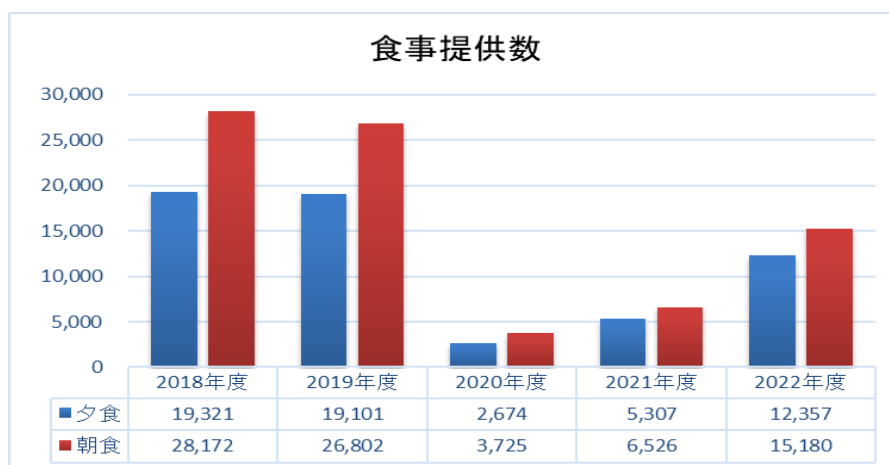
結果：12,357食 (摂取率 60.1%)

(目標達成率：92.2%、対前年度比：232.8%、対前年摂取率：-5.2%)

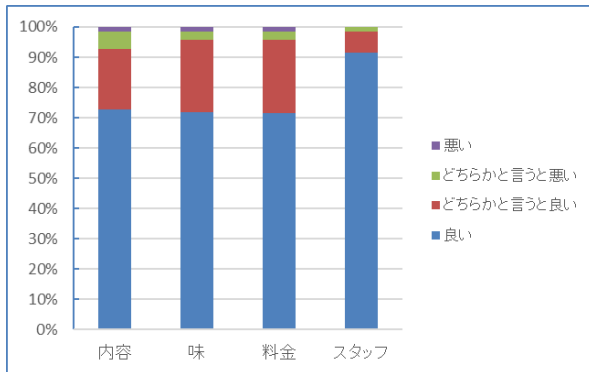
■朝食提供目標数：17,800食 (摂取率 84%)

結果：15,180食 (摂取率 73.8%)

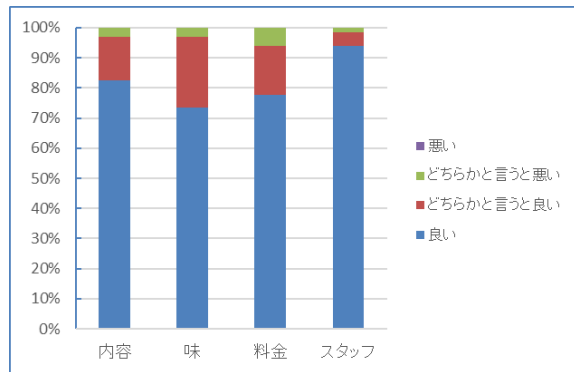
(目標達成率：86.3%、対前年度比：232.6%、対前年摂取率：-5.3%)



夕食アンケート (R=70)



朝食アンケート (R=67)



(2) トピックス

1. 世界を味わう「ワールドディナー」や京都らしいメニューの提供

コロナ禍となり海外旅行に出かけるのも難しい中、京都で異文化に触れる機会として世界の料理を味わう企画を継続して実施しました。上半期にはメニューを一新し、「オランダディナー」や「メキシコディナー」を提供しました。宿泊者だけでなく地域の方にも食べていただけるようにしており、既にリピーターもおられます。また一方で京都らしいメニューの提供も行っています。



- 4/9,5/20 : オランダディナーの日 : 49 食 (右上)
- 6/18,7/2,8/14 : メキシコディナーの日 : 187 食 (右中)
- 12/23,1/14 : 北欧ディナーの : 220 食
- 1/1 : 元旦おせち朝食 : 106 食
- 1/3 : 世界のカレーバイキングの日 : 49 食
- 2/12, 3/12 : トルコディナーの日 : 104 食
- 2/18 : 京都マラソン記念ランナー御膳 : 28 食提供 (右中下)
- 3/2 : 京湯豆腐御膳 : 17 食提供
- 個人向け特別夕食「京絵巻」※年間を通じて提供 (右下)
- 「うたのユース Open Day」においてトルコ料理等の提供

2. 安心安全な食の提供のために

コロナ禍においても、食の安心安全のために、アクリルボードの設置や消毒作業の他、食中毒を起こさないよう注意を払い、スタッフ側でも月1回の保菌検査の実施や業務開始時の2分以上の手洗い等の実施を日々行っています。また火を扱う場所となるため、職員だけでなくパートアルバイトにも火災時の心構えや消火器の扱いについて消防署員の指導のもと研修いたしました。



事業活動概況) IV. 天橋立ユースホステル (施設運営・食堂・物販)

2022年度は、6月からのコロナ感染第7波等の影響で当初予想を大きく下回る回復となりましたが、10月以降の感染者の減少や規制緩和、全国旅行支援の実施等により、下半期には大きな利用回復が見られました。

取り分け前年度までのコロナ禍では提供を行っていなかったカニ料理と宿泊をセットにした「カニパック」を再開し、全国旅行支援の割引や地域クーポン提供などを活用した利用で大きく貢献しました。

また、コロナ禍での日常の回復などの進展により、グループ旅行等の回復も見られた他、1月以降の全国旅行支援の継続なども貢献し、2022年度の当初目標の58.6% (2019年度実績の50.8%)まで回復することができました。

次年度以降の運営についても新たな運営者との協議と契約がまとまり、継続しての運営が可能となりました。

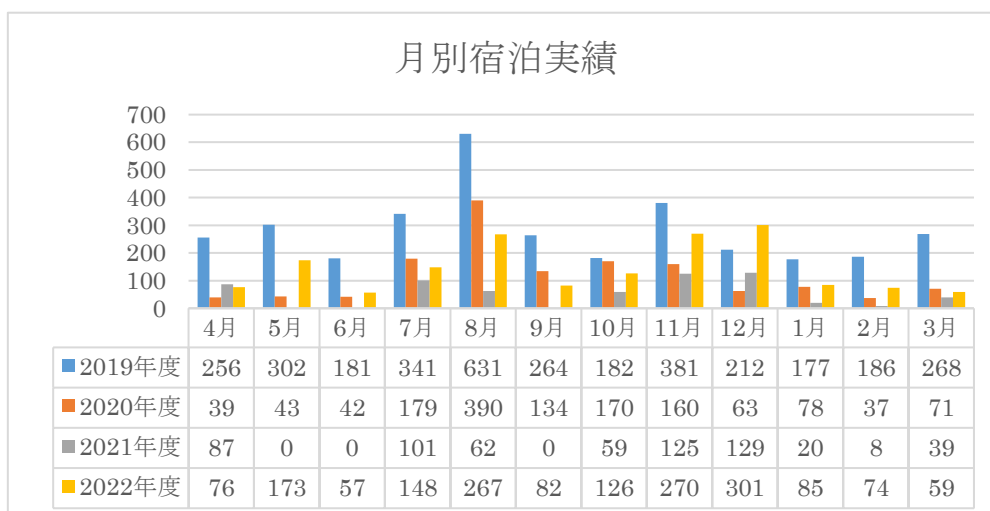
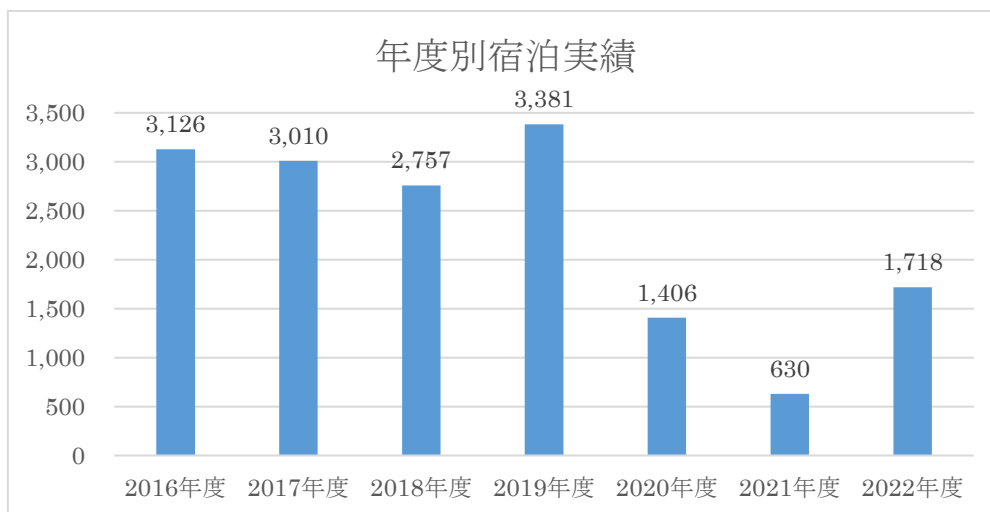
次年度以降のスムーズな運営に向けた運営等の引継ぎの準備や施設の清掃や片付け、整備や補修等の課題を整理し、運営のスムーズな移行と更なる利用の回復や運営の工夫、質の向上を図り、持続可能な運営についてより良い方策を見出せるよう取り組みを進めてまいります。

(1) 目標の達成状況

■年間宿泊者数目標	: 2,930名
今年度実績	: 1,718名 (対目標比: 58.6%)
前年度実績	: 630名 (対前年度比: 272.7%)
2019年度実績	: 3,381名 (対2019年度比: 50.8%)

(宿 泊)	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
2020年度実績	124名	703名	393名	186名	1,406名
2021年度実績	87名	163名	313名	67名	630名
2022年度目標	550名	1,130名	750名	500名	2,930名
2022年度実績	306名	497名	697名	218名	1,718名
目標達成率	55.6%	44.0%	92.9%	43.6%	58.6%

[宿泊実績データ]



事業活動概況) V. 組織運営

2022 年度上半期は、コロナ禍の状況を踏まえながら経済活動を回復させていくという難しい状況であったため、宇多野ユースホステルにおいては引き続き運営体制を最小限の状態のままで宿泊者数や食事摂取者数を増やす取り組みを行いました。また同時に、施設の状態やサービスの質を大きく低下させない範囲で、支出の抑制につながる取り組みも行いました。

そういった取り組みにより、12 月時点で見込んでいた大きな年間赤字額を少しは改善することが出来ましたが、スタッフには大きな負担を掛けていたこともありました。

コロナ禍の 3 年間で当協会は正味財産を半減させる結果となりましたが、追加の運転資金の借入をすることなく、なんとか乗り越えることが出来ました。2023 年度からは特徴ある事業活動・施設運営を行い、挽回を図りたいと考えます。

また、2023 年度から 4 年間、当協会が宇多野ユースホステルの指定管理者として施設運営を継続いたします。公の施設としての役割を果たしていくための事業や取り組みを進めていくためにも、人材の確保や安定化、多様な働き方などに取り組んでいきます。

[活動報告]

- 2023 年度から 4 年間の宇多野ユースホステル指定管理者に再選定されました。
- 天橋立ユースホステルの施設運営を継続するために、新たな団体と業務委託契約を締結いたしました。
- 最小限の運営体制で負担が大きい宇多野ユースホステルの日常運営をサポートいたしました。
- 宇多野ユースホステル運営における料金規定やリスク分担ほか、施設運営に関する改善希望事項について京都市担当課と協議を継続しています。

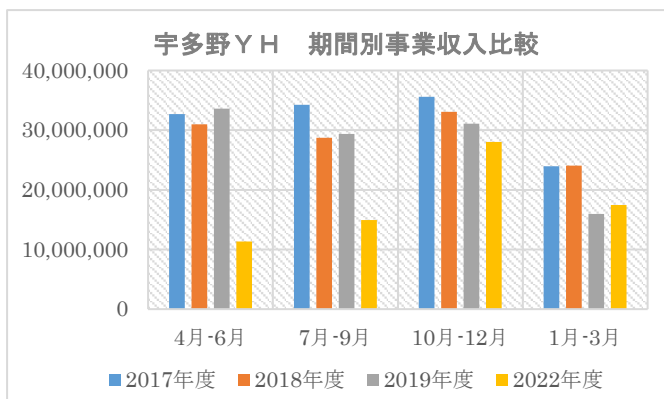


財務状況

(1) 概要

1. 決算概況

基幹事業である宇多野ユースホステル運営と食堂運営においては、上半期は引き続きコロナ禍の影響を受け、実績回復につなげることが出来ませんでした。例年、1月と2月の長期的な閑散期を見越して12月までの運営を行ってききましたが、今年度はその上半期に挽回することが出来ませんでした。



宇多野ユースホステル会計の収差差額は△13,694,807円となり、予算に対して約6,171,000円改善しましたが、反面、物資頒布会計・食堂物販は△1,305,575円と予算に対して約△5,751,000円の減益となりました。

12月時点では、期末決算が3,000万円を超える赤字となる見込みでしたが、京都市担当課の支援により今年度も納付金(1,020万円)の全額免除の措置を取っていただけたこと、また3月の宿泊実績が回復、特にインバウンドの急増により増収となったことなどがあり、最終的に2022年度の当協会全体の当期経常増減額は△15,517,875円(対予算:△390,875円)、当期経常外増減額を踏まえると△15,699,147円となり、正味財産期末残高は59,087,085円(21.0%の減少)となりました。

過去4年間で宇多野ユースホステルの施設修繕や魅力向上のために引き当ててきた修繕引当金については、今後の経年による施設や設備の補修繕や調度類の新調を想定し、2023年度からの新たな4年間の指定管理期間のために取り崩さず残しておくことといたしました。

アフターコロナの今後は、新たな旅の価値や楽しみの提案による利用者増加を図り、財務面においても健全な運営に戻していきます。

なお、公益法人改革制度に沿って2011年に一般財団法人へ移行の際に引き続いた公益目的財産(公益目的のための事業に計画的に支出すべき財産)は、2022年度末をもって償却が完了いたしました。

[経営実績の推移]

(単位：円)

科 目	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
経常収益（収入）	198,404,625	195,286,399	101,433,357	95,289,810	131,099,672
事業推進業務	61,027,987	58,382,977	18,086,269	32,188,114	38,966,688
指定管理業務・施設運営	127,088,381	126,904,419	73,870,300	55,195,042	83,494,643
組織運営業務	10,288,257	9,999,003	9,476,788	7,906,654	8,638,341
経常費用（費用）	201,744,193	187,225,738	116,117,535	105,938,254	146,617,547
事業推進業務	52,862,186	52,566,977	21,063,681	24,744,259	40,643,365
指定管理業務・施設運営	134,873,577	125,694,320	88,158,496	74,156,609	97,618,284
組織運営業務	14,008,430	8,964,441	6,895,358	7,037,386	8,355,898
当期経常増減額（経常利益）	△3,339,568	8,060,661	△14,684,178	△10,648,444	△15,517,875
経常外増減額（経常外利益）	△869,935	0	0	△9,311	△181,272
当期正味財産増加額（純利益）	△4,209,503	8,060,661	△14,684,178	△10,657,755	△15,699,147
正味財産期末残高	92,067,504	100,128,165	85,443,987	74,786,232	59,087,085

2. 公益目的財産額

[公益目的事業の推移]

(単位：円)

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
公益目的財産額（期首）	50,657,098	38,829,226	39,392,752	23,082,137	3,027,016
公益目的財産収支差額	△11,827,872	563,526	△16,310,615	△20,055,121	△15,294,988
公益目的財産額（期末）	38,829,226	39,392,752	23,082,137	3,027,016	0